インドネシアの病気と医療

インドネシアでは急速な経済発展の中で、健康と医療に関する種々の格差が広がっています。都市部と農村部の格差、貧富の格差、バリ島・ジャワ島とそれ以外の島という地理的な格差などにより、医療レベルは大きく異なります。

地方の農村に住む子供は栄養状態が十分でない一方、都市部では肥満や糖尿病が深刻な課題となっています。また、マラリア、デング熱、鳥インフルエンザといった感染症は今でも大きな脅威となっています。結核は世界第３位の患者数を抱え、鳥インフルエンザの感染者数と死亡者数は世界最多です。しかし、成人の死亡原因を見ると、循環器疾患やガン、糖尿病が上位を占めています。インドネシアでは栄養問題や感染症の対策を進めると同時に、肥満や生活習慣病にも対応することが求められているのです。

他の東南アジア諸国と比較し、乳児死亡率、妊婦死亡率が高いのも特徴です。そこで 1985 年に発足したのが「ポシアンドゥ」という組織です。毎月 1 回、5 才未満の子供の体重測定や母子保健、栄養改善、ビタミン剤の投与などの保健サービスを実施し、保健師による予防接種も行われます。自分たちにできることから始めていこうというこの自助自立の組織、「ポシアンドゥ」は活動開始からわずか４年で全国に 20 万ヶ所設置され、乳児死亡率の減少に大きく貢献したといわれ、現在でも全国で多くの「ポシアンドゥ」が活動しています。

多くの島が点在し、それぞれが固有の伝統的な文化や習慣を受け継いでいるインドネシアでは、近代医療の導入後も民間療法が根強く住民から支持されています。その一つが「ジャムー」です。「ジャムー」とは薬用植物から作るジャワの漢方薬です。疲労回復や健康維持など、症状に応じてガラス瓶の液体をコップに入れて、卵の黄身を混ぜ合わせ調合します。一杯 50 円程度で道端の屋台や行商で売られるのが一般的ですが、最近では様々な製薬会社がパッケージ化し、市販薬として売られているものもあります。

パッケージ化されたジャムー

また、医者に行っても治らない病気は「ドゥクン」が診療します。「ドゥクン」とは、超自然的な能力を持つ呪医を指します。インドネシアでは近代医学で治らない病気は霊がついているか、誰かが呪術をかけたとみなされることが多いのです。そこで人々は霊を払い、呪術を解いてもらうために「ドゥクン」を訪れます。治療法はそれぞれの「ドゥクン」で異なりますが、聖水をかける、クリス（短剣）を体に当てる、香の煙でいぶすなどといった方法が用いられます。「ドゥクン」になるための免許がある訳ではありません。弟子入りする者もあれば、自分で修行する者、ある日突然能力に目覚める者など様々です。治療ができれば「ドゥクン」として通用するのです。

「ドゥクン」は地方の村落から大都市まで全国に見られ、民族、宗教も様々ですが、今日までインドネシア社会で生き続けています。その理由はやはり人々が呪術の存在を信じ、受け入れているという事実があるからでしょう。

依然としてインドネシアにおける医療の格差は大きいですが、住民参加型の保健サービスが普及することにより、適切なサービスが受けられる環境が徐々に整備されてきています。また、民間療法も人々の生活には無くてはならないものです。インドネシアの医療事情を理解するためには旅行者用ガイドブ

ックに書かれた病気対策や医療事情だけではなく、民間療法を通してインドネシア社会を眺める姿勢も必要なのかもしれません。

以上

＜これまでの岡山県インドネシアビジネスサポートデスクレポートはこちらから＞

★岡山県インドネシアビジネスサポートデスク（ＰＴ．ＪＣ内）概要★

所在地：WISMA NUSANTARA BUILDING 24th Floor
Jl. M. H Thamrin Kav 59 Jakarta Pusat Indonesia 10350
デスク担当者：PT.JC　武井　和宏（たけい　かずひろ）
対象エリア：インドネシア全域

※「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のインドネシアでの事業展開を支援しています（岡山県から公益社団法人　日本インドネシア経済協力事業協会に業務を委託）。ご利用に当たっては、「岡山県インドネシアビジネスサポートデスク」利用の手引きをご覧のうえ、岡山県産業企画課マーケティング推進室（電話 086-226-7365）までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のインドネシアでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。